

## 成果発表 1 航海情報の新時代 ～S-100 が拓く新たな世界～

服部 友則

技術・国際課 海洋研究室

### 1. はじめに

海上保安庁海洋情報部およびその前身となる機関では、明治の初めから約 150 年にわたり、海図をはじめとする船舶の安全で効率的な運航に必要な不可欠な航海情報を作製・提供してきた。

近年では、陸上での船舶運航管理や自動運航船の開発など航海情報を活用する新たなニーズが生まれており、その重要性は益々高まっている。そのような状況に対応するため、現在国際水路機関（IHO）を中心として航海情報全般をターゲットにした新たな製品仕様群（S-100 シリーズ）の開発が進められている。

### 2. S-100 の現状と最新動向

S-100 シリーズは地理空間情報の国際基準に準拠しており、電子海図情報表示装置（ECDIS）等で複数の航海情報を統合利用（図 1）できることが特徴の一つである。その中でも要となるのが電子海図の製品仕様（S-101）である。S-101 は 2018 年 12 月に初版が公開され、現在は対応 ECDIS の開発や提供体制の構築など、実用化に向けた環境整備が進められている。ここで重要な点は、S-101 電子海図自体は現行の電子海図と同等の内容であり、海図としての機能に大きな違いはない、ということである。その真価は、他の S-100 シリーズの航海情報と統合利用することにより発揮される。そのような電子海図以外の航海情報についても、海潮流（S-111）や気象・海象情報（S-412）など、製品仕様の検討が順次進められている。

IHO の計画では、2024 年初頭を S-101 電子海図実用化の目標としており、航海の様々な場面で S-100 シリーズの航海情報を統合利用する「S-100 時代」に向け、準備が整いつつあるところである。

### 3. 海洋情報部の取組と航海情報の将来

海洋情報部では、「S-100 時代」を実現するために S-101 電子海図テストデータの作製や国際会合への参画等に積極的に取り組んできた。

今後は、「S-100 時代」の実現を前提として、将来の航海情報のあり方を検討していくことが必要である。

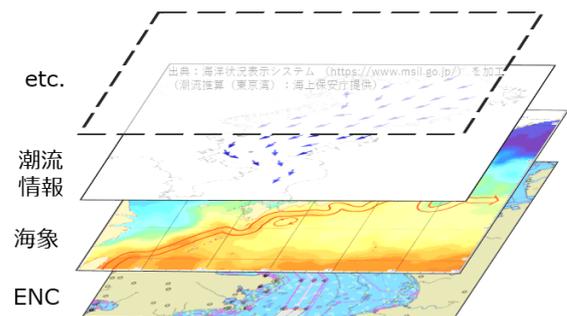


図 1 航海情報の  
統合利用イメージ

### 4. おわりに

「S-100 時代」には、航海情報の姿は大きく変化するかもしれない。一方で、我が国が海に囲まれ多くの船舶がその海を行き交う限り、「船舶の安全で効率的な運航を支える情報」という航海情報の意義は失われないだろう。その意義を踏まえ、今後も適切な航海情報を提供していくことが重要である。